

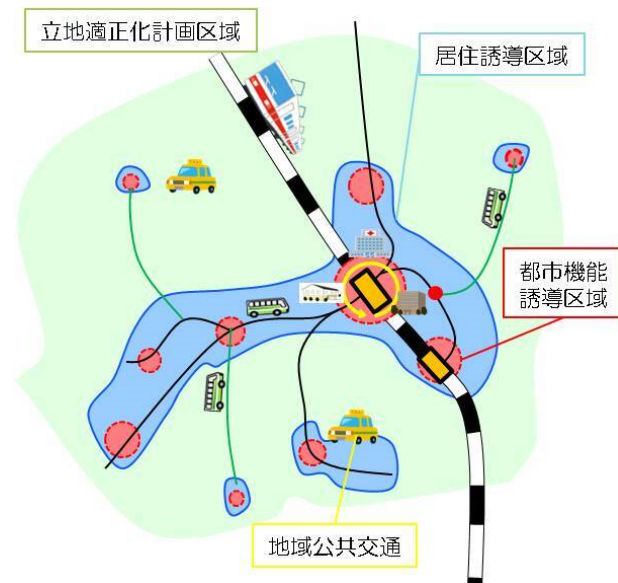
立地適正化計画とは？

「立地適正化計画」（国土交通省）の概要

居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能の立地、公共交通の充実など、**都市全域を見渡した包括的なマスタープラン**として機能する都市計画マスタープランの高度化版となる計画です。

拠点となる地域に生活サービス機能を計画的に配置するとともに、その周辺市街地の人口密度を維持していくことで、高い生活利便性を将来にわたって確保するとともに、拠点地域と居住地とのネットワークの充実も一体的に図ることで、誰もが暮らしやすい『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』のまちづくりの実現を目指します。

※立地適正化計画では、居住誘導区域と都市機能誘導区域を設定するとともに、立地を誘導すべき都市機能を誘導施設として定めます。



居住誘導区域

買物等の生活サービスや公共交通の利便性が高く人が集まるエリア等において、人口密度が維持し、生活サービスや地域コミュニティが持続的に維持されるよう居住を誘導する区域。

都市機能誘導区域

スーパーマーケットや病院等の生活に身近な医療・福祉・商業などの都市機能を拠点となるエリアに誘導・集約し、各種サービスの効率的な提供を図る区域。

資料：国土交通省

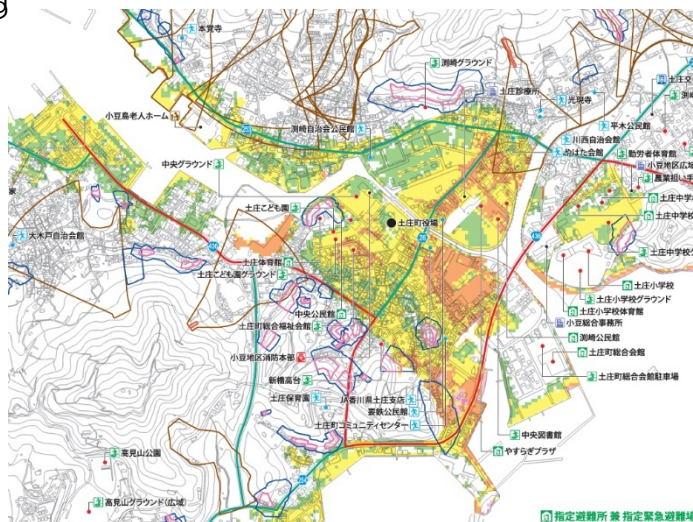
立地適正化計画内に位置付ける「防災指針」とは？

近年、全国各地で豪雨や土砂災害、河川堤防の決壊等による浸水などが発生し、生命や財産、社会経済に甚大な被害が生じており、今後も自然災害が頻発・激甚化することが懸念されています。

水害に限らず、土砂災害、地震等の災害リスクをできる限り回避あるいは低減させるため、必要な防災・減災対策を計画的に実施していくことが求められます

このため、災害リスクを踏まえた課題を抽出し、**都市の防災に関する機能の確保を図る指針**として、「防災指針」を定めるとともに、この方針に基づく具体的な取組を位置付けることが必要です。

※土庄町では、既に災害ハザード区域内に市街地が形成されている現状など、災害リスクを踏まえた課題を抽出し、都市の防災に関する機能の確保のため、防災指針を定め、方針に基づく具体的な取組を位置付けることにします。



資料：土庄町津波・土砂災害ハザードマップ

次回

第2回ワークショップについて

10/30(日) 9:30～ テーマ：「理想的な暮らし方について」

- 1回目の結果を踏まえ、まちにずっと住み続けるための「理想的な暮らし方（こんな暮らしがしたい等）」の実現に向けて、今後どのように取り組むか等の検討を行います。

2022年10月
No. 01

土庄町役場 建設課
TEL:0879-62-7006
FAX:0879-62-2400

土庄町まちづくり

ワークショップニュース



土庄町まちづくりワークショップ 第1回を開催しました！

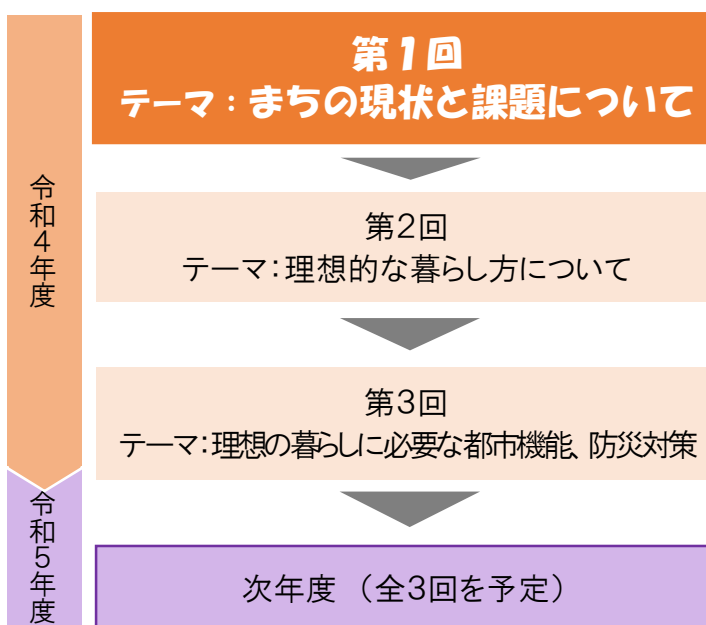
土庄町では、急激な人口減少・少子高齢化に直面しており、自家用車の増加や産業の変化、頻発・激甚化する自然災害、財政の悪化など、社会構造の変化に対応した持続可能なまちづくりの実現が求められています。

そのような中で、昨年度、中長期的な視点に立った都市計画における将来都市像（基本的な方針）を示す「土庄町都市計画マスタープラン」を策定しました。

その基本的な方針に実効性を与えることができ、また規制と誘導措置によって、持続可能なまちづくりの実現を目指そうとする、『立地適正化計画』を今年度から2か年かけて検討することとなりました。

この計画を検討するにあたり、住民の皆様のご意見を十分汲み取り、反映していくとともに、まちの実態について共有し、将来的なまちのあるべき姿について意見交換を行う場として、「土庄町まちづくりワークショップ」をスタートしました。今年度と次年度含めて、全6回の開催を予定しています。

ワークショップの予定（全6回）



～当日のプログラム～

1. 開会
2. 「立地適正化計画」について
3. 自己紹介
4. ワーク1
 - ・土庄町の強み・自慢できるもの・こと
 - ・土庄町で無くなったら困るもの・こと
 - ・日常生活においてまちなかで気になること
 - ・グループ発表
5. ワーク2
 - ・安全なまちをつくるうえで、困っていること、直したいこと・改善したいこと（まちなか（中心地）／土庄町全域）
 - ・グループ発表
6. 閉会

1回目は「まちの現状と課題」をテーマに、話し合いました！

当日のワークショップの流れ

第1回目のワークショップということで、立地適正化計画の概要について説明を行った上で、テーブルで役割分担を決めて行うワークと、地図を使ったワークを行いました。
最後に、すべてのグループから検討内容を発表いただきました。

立地適正化計画等について説明



自己紹介



ワーク1



話し手、聞き手、記録の役割を決め、テーマごとに対話

ワーク2



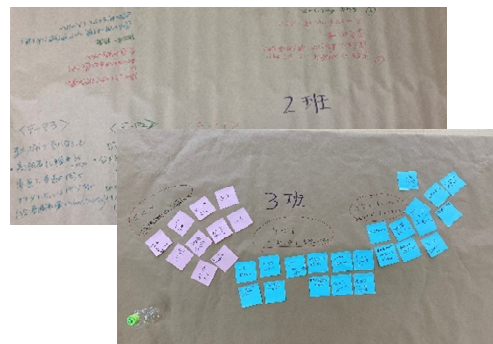
気になるところを地図に記入

グループごとに検討結果を発表



まちの強み・無くなった困るもの・まちなかで気になることについて

まちの現状と課題を共有するため、「土庄町の強み・自慢できるもの・こと」、「土庄町で無くなった困るもの・こと」について話し合いを行うとともに、計画の対象エリアである「まちなか（中心部）」をテーマに「日常生活において気になること」について意見交換を行いました。



テーマ	全班での主な意見
土庄町の強み・自慢できるもの・こと	● 中心部はコンパクトであり、利便性が高い ● 教育機関が充実し、子育てがしやすい ● 大きな災害が少ない ● 伝統的な行事が残っていて、人のつながりが強い ● 歴史・文化的資産や、名所、パワースポットが多い ● 海と山に囲まれ、自然が豊かで景色や環境が良い ● そうめん、しょうゆ、ごま油などおいしい特産品がたくさんある など
土庄町で無くなったら困るもの・こと（施設）	● ライフライン（電気・水・ガス） ● 公共交通手段（バス・フェリー・タクシー・海上タクシー）や土庄港 ● 公共施設（公民館・警察署や交番・消防署など） ● 医療機関（介護事業所など）、ヘルパー ● 教育機関（幼稚園・小中学校・塾など） ● 自治会機能や、地域コミュニティ（消防団・青年団・婦人会・老人会など） ● 商業施設（スーパー・個人商店など）、ガソリンスタンド ● 勤め先（大企業に依存している） ● 観光施設や観光資源、文化財、地域の伝統、祭り、誇り など
日常生活において、まちなかで気になること	● 空き家・空き地や荒れ地といった危険を感じる場所が増えた（特に豊島） ● 南海トラフや台風といった防災対応ができていない、防災無線の役割に疑問を感じる ● 地域の店舗がなくなっていることで、徒歩圏に店舗がないといった買い物格差（店舗までの距離など）が地域間で大きくなって生活弱者が増えている ● 地域によって住宅の過密と過疎の差が大きい ● 高齢者が安全に徒歩移動できない狭い道路がある、高齢ドライバーの増加が目立つ ● 高齢者の安否確認をする人がいない ● コミュニティの場所がない、子どもが外で遊んでいる姿をみかけない など

安全なまちをつくるうえで、困ること、改善したいことについて

立地適正化計画において、重要視されている防災の視点を踏まえて、まちなか（中心部と、土庄町全域において、「安全なまちをつくるうえで、困っていること、直したいこと・改善したいこと」をテーマに、地図を使って、自分の住む地域に関して、意見交換を行いました。

「まちなか（中心部）」に対する主な意見

【防災・減災】

- 緊急車両が通行できないため道路の拡幅の検討が必要
- 黒岩に上がる道の竹林を管理してほしい
- 生活道路がハザード区域内にあり、もし使えなくなった場合に代替となる道がない
- 高潮災害がある場所（土庄本町など）がある
- 土庄港の天災対策をしっかりしてほしい
- 防波堤が低すぎると思う場所がある
- 住宅が密集していて火災時に危険なエリアがある
- 砂防ダムがいっぱいで不安な箇所が複数ある

【道路・街路】

- 路面の凹凸がひどい
- 道路の草刈りや掃除が不十分
- 道路に街灯が少ない、もっと設置が必要
- 道路に植樹がほしい
- 渋滞が起こりやすい場所がある など



「土庄町全域」に対する主な意見

- 土砂災害が起こりやすく、通行止めになる可能性のある箇所がある（見目、小江～長浜間）
 - 高潮被害が起こりやすい場所がある（沖之島）
 - 緊急車両が通れない幅の道がある
 - 道が狭い、カーブが多い
 - 道路の中央線が消えていて、自動運転の車両導入の妨げになっている
 - 観光客と地域住民との交通ルールの認識の違い
 - 大部港がなくならないでほしい
 - 街灯が少なく、暗い
 - 買い物格差がある地域がある
- など

【豊島】

- 救急搬送手段が確立していない
 - 高齢者の買い物や診療所、港などへの移動手段がない
 - WEB環境が不十分でリモート会議ができない
 - 空き家や農地の管理問題がある
- など